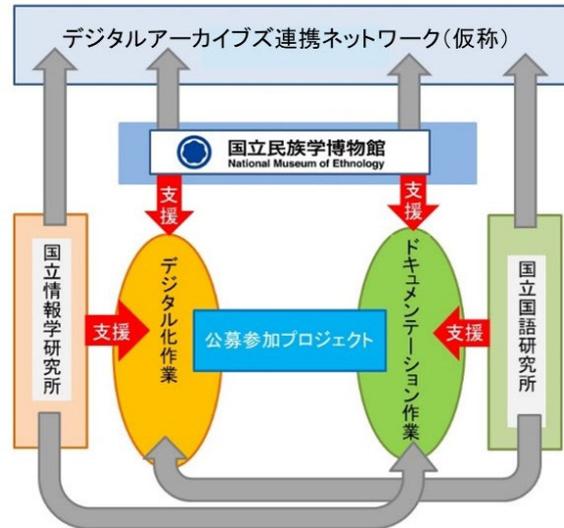


「学術知デジタルライブラリの構築」X-DiPLAS

実施体制

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



デジタル化作業

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

デジタル化作業、データ入力作業などの人員を増加、
きめ細かな支援を実現

スライドをデジタルカメラのCCD(撮像素子)に直接投影する機材や、データを管理・配信するストレージシステムなど、設備面でも支援水準を高度化

中核機関の設備を利用して、光学技術業者に頼ることなく独自の方式で写真画像をデジタル化



データ入力に関する支援内容

負担の軽減

データベース構築のさい、頻出する地名やキーワードなどのチェックボックス・リストを作成。支援対象者がテキストを入力する手間を軽減



撮影場所や撮影年月日も、できるかぎり中核機関側で一括入力

AIの活用

AI(人工知能)技術で得られた画像内容テキスト化のデータセットを活用し、候補となるキーワードを提示(自動タグ付け)。支援対象者がテキスト入力する手間を軽減

顔認識機能(人物の顔を検出・検索できる機能)により、同一人物が写っている写真をグルーピングし、権利処理の対象となる写真を効率的に抽出

入力支援

データベース構築後に、OCM(文化項目分類)コードを事業の中核機関が付加。スライドのマウントに記されている文字など、客観的に入力できるテキストも中核機関が入力

データベース構築後に、支援対象者がテキスト入力する作業量を軽減するべく、手入力でなく音声で中核機関に入力を指示することし、作業量を軽減

権利処理

著作権

著作権譲渡ではなく、最低限の利用許諾にもとづき
中核機関がデータベースを作成・運営

肖像権

顔認識機能(人物の顔を検出・検索できる機能)により、同一人物が写っている写真をグルーピングし、権利処理の対象となる写真を効率的に抽出

肖像権処理をおこなう必要のある画像については、
個別の対応を中核機関が支援

現地での確認以外に方法のないものについては、
中核機関が独自の研究プロジェクト、ネットワークを活用して撮影地にアクセス
(現地調査の支援も実施)

必要に応じて、海外の調査機関と覚書を交わす実務も支援

